

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成18年9月21日(2006.9.21)

【公開番号】特開2005-148567(P2005-148567A)

【公開日】平成17年6月9日(2005.6.9)

【年通号数】公開・登録公報2005-022

【出願番号】特願2003-388451(P2003-388451)

【国際特許分類】

**G 02 B 5/30 (2006.01)**

**G 02 F 1/1335 (2006.01)**

【F I】

G 02 B 5/30

G 02 F 1/1335 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月3日(2006.8.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

環状オレフィン系樹脂を主成分とする偏光子保護フィルムであって、以下に定義する応力緩和率が7%以上であることを特徴とする偏光子保護フィルム。

幅20mmの短冊状試験片を、引張試験機にチャック間距離が100mmになるようにセットし、引張速度1mm/minで伸長させ、9.8MPaの引張応力がかかった時点で伸長を停止させ、停止後3時間経過時点の引張応力S<sub>3H</sub>(MPa)を読み取り、次式により応力緩和率を算出する。

$$\text{応力緩和率}(\%) = [(9.8 - S_{3H}) \div 9.8] \times 100$$

【請求項2】

引張弾性率が900MPa以上であることを特徴とする請求項1記載の偏光子保護フィルム。

【請求項3】

請求項1または2に記載の偏光子保護フィルムが偏光子の少なくとも一方の面に積層されていることを特徴とする偏光板。

【請求項4】

液晶セルに偏光板が積層されてなる液晶表示装置であって、液晶セル、偏光子保護フィルム、偏光子、請求項1または2記載の偏光子保護フィルムがこの順に積層されてなることを特徴とする液晶表示装置。